

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 4 月 25 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究 C

研究期間：2009 ～ 2012

課題番号：21520403

研究課題名（和文） 動的なパースペクトの組織化に関わる言語形式と文脈パラ미터に関する意味的研究

研究課題名（英文） Semantic Study on the Dynamic Organization of Perspectives and Contextual Parameters

研究代表者

山森 良枝 (YAMAMORI YOSHIE)

同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部・教授

研究者番号：70252814

研究成果の概要（和文）：本研究は、パースペクトの組織化を、文脈パラ미터（発話主体、時間、世界）の組織化と見なす立場から、1 文内で複数のパースペクトが交叉するやっかいな事例に着目し、パースペクトを表す *indexical* などの語彙項目の分布と機能を明らかにする作業を通じて、日本語における動的なパースペクトの組織化の実態を解明するとともにその背景にあるメカニズムを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Conversations usually have a perspective with respect to which the content of the discourse can be evaluated. However, the perspective is not always uniform. Perspectives can shift even during a discourse about a single event. In this study, I show that the perspective shifts are determined by shifting the contextual parameter along with the attitude holder argument shift, i.e. specially subject of utterance shift, with reference to Japanese data.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	700,000	210,000	910,000
2009 年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：パースペクト・シフト、De Se, De Re, 引用符、引用、従属節時制

### 1. 研究開始当初の背景

パースペクト・シフトの関連研究に、引用文と元発話の間の人称代名詞の交替や法助動詞による当該命題の評価環境のシフトに関する研究 (Davidson, 1979; Recanati, 2000, 2007 等)、および、会話分析の流れをくむ話者-聴者間での共通基盤の形成に関する研究 (Clark, 1992 など) などがあり、参照枠としてのパースペクトの設定やシフトに注目したものは多くある。しかし、それらは文脈や

パースペクトではなく、「語」の評価のシフトや、先行文と後続文、元発話と引用文の間でパースペクトが異なる場合が主たる議論の対象であり、ひと続きの文中での異なるパースペクトの混在やシフトへの目配りが多いとはいえず、本研究が乗り越えようとしている Kaplan などの古典的研究と大差ない。これに対して、研究代表者は、文の途中でパースペクトや関与的な文脈が変更されたり、異なるパースペクトが混在する場合、話者はい

かにしてその変更や混在を明示し、聴者はどうやってそれを知るのか、というパースペクトの組織化の動的な側面に注目してきた。同様の関心は形式意味論の分野でも、Kaplanを徹底して批判した Schlenker(2003, 2008) や、Percus(2000, 2003, 2008)の一連の研究などでも窺うことができ、既存の理論の限界を乗り越えようとする動きがあった。これらは動的なパースペクトの組織化に重大な関心を寄せる点で本研究計画と深い関連を持っており、本研究の着想が単に興味深いだけでなく現実的で生産的な研究プランであると考えるに至った。

## 2. 研究の目的

本研究は、一見雑多なクラスに属するパースペクト・シフターを研究対象に、パースペクトの組織化＝文脈パラメーター(発話主体、時間、世界)の組織化という視座から、そのふるまひの実態を調査し、動的なパースペクトの組織化を支える意味論的な根拠を理論的かつ実証的に明らかにすることを目的とした。具体的には、以下の3点を明らかにすることを目的とした。

(i)パースペクトの組織化を示すデータの日本語の多様な一次資料からの収集、分析と、その実態と分布条件の解析。

(ii)パースペクトの組織化に関わる言語形式それぞれの個別的な意味特性の抽出・記述、および、それらに通底する普遍的な意味特性の探求と、それが文脈パラメーターの何とどう相互作用することにより、異なるパースペクトが組織化され得るのか、動的なパースペクトの組織化の背景にあるメカニズムの解明。

(iii)この目的を遂行するために必要な、現象を記述し分析するための理論的枠組みの探求。

## 3. 研究の方法

本研究の目的を遂行するために、まず設備用品費で請求したデータベース検索編集装置を用いて、既存のコーパスや新聞記事データベース、小説、漫画、および、電子ネットワーク上のコミュニケーションなどの多様な一次資料から、該当する事例を検索・集積し、分析対象となるデータを整理してデータベース化をはかるとともに、意味論的観点からパースペクト・シフターそれぞれの論理構造を記述した。これと平行して、パースペクト・シフターがそれらを含む文の統語構造や文脈により束縛される文脈パラメーター(発話主体、時間、世界)の何とどう関係し、それをどう伝え得るのかを各種のデータに基づいて追求し、その実態を明らかにした。また、その過程で明らかになった主要な記述上・理論上の問題点を把握するとともに、個々のパ

ースペクト・シフターに通底する普遍的な意味特性を探求し、その結果に基づいて、動的なパースペクトの組織化を支えるメカニズムを追求した。そうして得られた研究成果を内外の学会やワークショップにおいて発表、討議し、研究の精度の向上を図り、最終的な研究成果を報告書にまとめ、印刷した。

## 4. 研究成果

日本語における動的なパースペクトの組織化の実態を検証し、その背景にあるメカニズムを明らかにした。主要な成果を列挙する。(i)パースペクトがシフトされる場合、パースペクト・シフターが新規導入するパースペクトと、パースペクト・シフターが含まれる文を支配する親パースペクトの間の文脈パラメーターの一致・不一致に基づいて、パースペクト・シフトの実態を明らかにし、個々のパースペクト・シフターの意味特性と生起条件を追求した。(論文 2, 5)

(ii) パースペクト・シフターは、しばしばそれが含まれる文の話者以外の個体の発話や思考を表すいわゆる de se といわれる解釈を導入する場合がある。しかし、パースペクト・シフトの方向性は必ずしも de re から de se へと一定しているわけではない。これについて、パースペクト・シフターの統語的位置・環境とシフトの方向性との関連なども考慮しつつ、具体的内容を観察し明らかにした。(論文 2, 6, 7)

(iii)異なるパースペクトが混在する場合に文脈パラメーターの何がどう関係するのかを探求し、パースペクトがシフトしない場合との異同を明らかにした上で、パースペクト・シフターとして機能する語彙項目の論理特性を明らかにした。(論文 3, 4)

(iv) 以上の研究結果に基づいて、現象全体を説明し得る包括的な意味論の構築を目指した。(図書 1)

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7 件)

1. 山森良枝, 「著者性とパースペクト・シフトー時制辞と引用符が教えることー」『電子情報通信学会技術研究報告』Vol.112 No.103: pp.25-30. (2012年6月) 査読無
2. Yamamori Yoshie, “Quotations and Quotation Marks in Japanese Contexts”, In *Genbun* 14-4: pp. 427-457. (2012年3月) 査読有
3. 山森良枝, 「埋め込まれた時制のパズル：時制の De Se 分析」『第28回日本認知科学学会大会発表論文集』: pp.757-762. (2011年9月) 査読有

4. Yamamori Yoshie, “Representing Events in Japanese Complex Predicates” ,In Proceedings of the 24th Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation: pp.311-320. (2010 年 11 月) 査読有
5. 山森良枝, 『『てある』・『ておく』構文について』『神戸大学言語学論叢』7: pp.107-120. (2010 年 1 月) 査読有
6. 山森良枝, 「時間的パースペクト・シフトと従属節のテンス」『第 26 回日本認知科学学会大会発表論文集』: pp.278-279. (2009 年 9 月) 査読有
7. Yamamori Yoshie, “Quotations as Discourse Perspective Shifters”. In A.Rumshisky and N. Calzolari (eds.) Proceedings of GL 2009: pp.19-26. (2009 年 9 月) 査読有

[学会発表] (計 5 件)

1. 山森良枝, 「著者性とパースペクト・シフトー時制辞と引用符が教えることー」  
電子情報通信学会 早稲田大学 (2012 年 6 月)
2. 山森良枝, 「埋め込まれた時制のパズル : 時制の De Se 分析」第 28 回日本認知科学学会 東京大学 (2011 年 9 月)
3. Yamamori Yoshie, “Representing Events in Japanese Complex Predicates” , the24th Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation, Tohoku University, Sendai Japan, November 6. (2010 年 11 月)
4. 山森良枝, 「時間的パースペクト・シフトと従属節のテンス」第 26 回日本認知科学学会 慶応大学 (2009 年 9 月)
5. Yamamori Yoshie, “Quotations as Discourse Perspective Shifters” , Fifth International Conference on Generative Approaches to the Lexicon, Pisa Italy, September 17-19. (2009 年 9 月)

[図書] (計 0 件)

[その他]

1. 山森良枝, 『平成 21 年度～24 年度科学研究費補助金(基盤研究 C) 研究成果報告書』(2014 年 3 月)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山森 良枝

同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部・教授

研究者番号 : 70252814

(2) 研究分担者 ( )

研究者番号 :

(3) 連携研究者 ( )

研究者番号 :

